

令和7年度「地域学校協働本部事業」 地域学校協働活動事業の取組事例

「南相馬市地域学校協働事業」の成果と課題(福島県南相馬市)

取組の概要や経緯

南相馬市では地域と学校がパートナーとして「連携・協働」し、地域ぐるみで子どもを育み、地域社会の活性化を図ることを目的に「地域学校協働活動事業」を令和4年度から開始し、令和7年度までに市内全小学校に拡充し実施している。

内容

- 農業体験活動**: 地域住民等の協力により、全校児童が年間を通して、「田植え・稲刈り体験」「さつまいもの苗植え、収穫」を行い、世代間交流を実践した。(上真野小・太田小・大甕小)
- 学習支援活動・体験活動**: 地域の退職教員が中心になり、「夏休み・冬休みこども教室」の学習支援活動や、「習字・書初め教室」、「料理教室」などの体験活動を実施した。(高平小)
- 放課後子ども教室事業**: 地域の参加と協力のもと、参加登録児童が文化・スポーツ、農業体験など年間を通して各種事業を実施し、子どもたちの健全育成、居場所づくりを推進した。(小高小・石神一小)
- 学校支援活動**: 地域住民や企業等の参画のもと、「昔遊び」「家庭科授業」「伝統文化教室」「探求学習」など、地域人材の活用を図りながら、多様な学校支援活動を実践した。(原町一小・原町二小・原町三小・石神二小・鹿島小)

ポイント

- 各学校を管轄する地区生涯学習センターが核となり、「地域学校協働本部」を設置。
- 地域と学校をつなぐ地域コーディネーターを中心としたボランティアの参画により、郷土学習や、体験活動、学習支援、学校支援など、地域に根ざした活動を実施している。

成果

- 地域が学校・子どもたちを応援・支援する一方向的な活動から、双方向の「連携・協働」型の活動に転換し、事業の充実が図られた。結果、令和7年度は市内11小学校全校で実施するに至った。
- 地域コーディネーターを中心に、地区生涯学習センターが、地域学校協働本部機能を果たしながら、学校や地域住民との緊密な連携により、地域の特性を活かした事業を展開することができた。



今後の方向性

- 本事業の基本的な考え方は、生涯学習センター所管区域を一つの単位として、地域学校協働本部を設置し、本部内の学校において事業を展開する。
- 今後、更に本事業内容の充実に努めながら、市内全中学校への拡充を図る。